

奈良県の 農産・園芸・水産



奈良県

奈良県の農産・園芸・水産

目次

1 概要	自然的条件	1
	統計	2
	産地マップ	5
2 生産状況	水稻・麦・大豆	6
	野菜	7
	薬用作物	8
	果樹	9
	花き・植木	10
	茶、環境保全型農業	11
	水産業	12
3 研究の取組み		13

〈令和元年度のトピックス〉



県育成イチゴ“珠姫(たまひめ)”が令和元年12月、出願公表されました(現在、品種登録出願中)。

“珠姫”は、酸味が少なく、さっぱりとした甘みが特徴です。

また、“アスカルビー”や“古都華”と比較して果実が大きく、最大果実重量は80gを超えます。
(“アスカルビー”、“古都華”は最大55～60g程度)。

(写真は、“珠姫”の栽培中の様子(左)と果実(右))

はじめに

本県は、都市近郊という立地の良さや恵まれた自然条件を生かした、農業や水産業が古くから営まれ、柿やキク、金魚など、全国に誇れる特産品を生産してきました。しかし、今や農産物価格の低迷や担い手の高齢化など、県農業・水産業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。

そこで、県では、奈良らしい農業・水産業の発展と農村の活性化を図るため、県産農水産物の高付加価値化、高品質化によるブランド化や販路開拓等に向けて、生産から流通・加工、販売までの一気通貫した取り組みを積極的に展開しているところです。

この冊子は、皆様方に県農業・水産業の状況や県が行っている施策や研究の取り組み等を紹介し、県農業・水産業へのご理解を深めていただくために作成しました。

令和2年3月

1 概 要

自然的条件

① 気 象

(奈良)

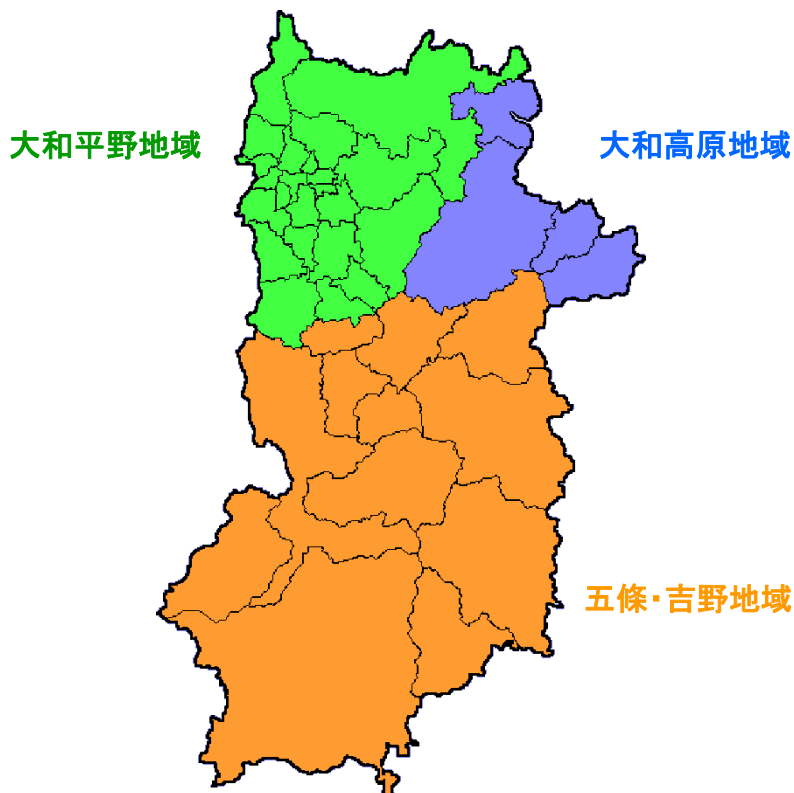
年平均気温	年降水量	年間日照時間	年平均日最高気温	年平均日最低気温
14.9℃	1,316mm	1,823h	20.4℃	10.3℃

※奈良地方気象台の地上気象観測年別平均値
(統計期間1981～2010年)

② 地 勢

面 積	南 北	東 西
3,691km ²	103.4km	78.6km

■ 地域区分



南北103.4km、東西78.6km、
面積は3,691km²。国土の約
1%を占めている。

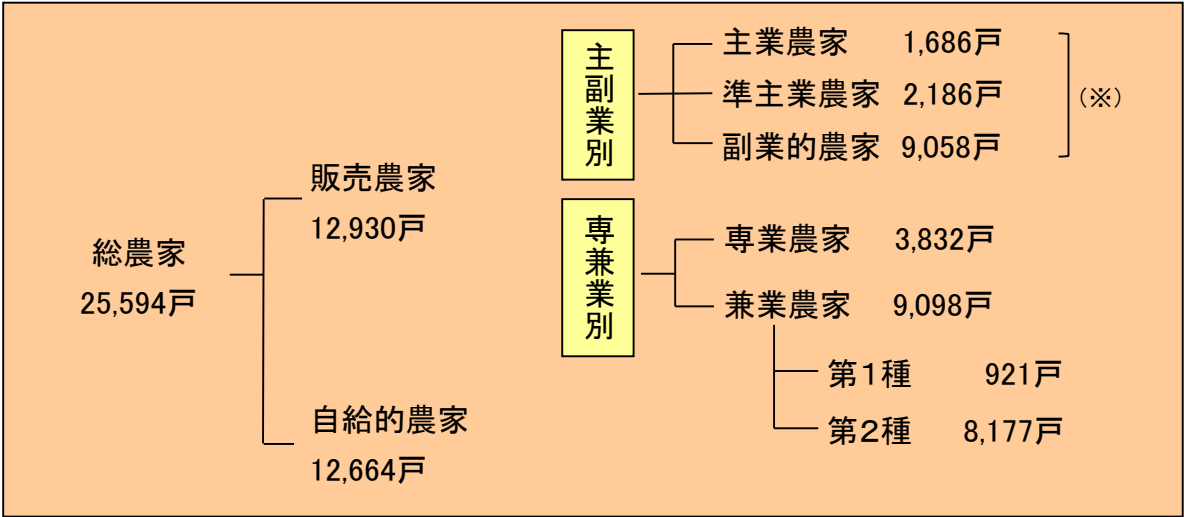
○「大和平野地域」は標高
概ね100m以下の平地から
なる奈良盆地を中心とする
地域

○「大和高原地域」は県北
東部に位置する標高200～
500mの中山間地域

○「五條・吉野地域」は大部
分が山間地域

統計

① 農家数



(※) 主業農家 2015年農林業センサス(確定値)
農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。
準主業農家
農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。
副業的農家
調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)をいう。

② 耕地 (ha)

耕地面積		
	田	畑
20,200	14,200	5,940

耕地及び作付面積統計(令和元年)

③ 食料自給率 (%)

カロリーベース	生産額ベース
14	23

農林水産省試算(平成29年度概算値)

④ 作物別産出額 (億円)

米	麦類	野菜	いも類	果実	花き	茶	その他	合計
111	0	104	3	71	34	16	68	407

「平成30年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」(農林水産省)

⑤ 主要品目別統計

● 水稻・麦・大豆（平成30年産）

	水 稻	小 麦	大 豆
作付面積(ha)	8,530	110	148
収 穫 量(t)	43,800	218	104
産出額(億円)	111	0.1	0.2

農林水産省 農林水産統計
小麦・大豆の産出額は県推計値

● 野菜（平成30年産）

	イチゴ	ホウレンソウ	ナ ス	ネ ギ
作付面積(ha)	105	293	94	141
収 穫 量(t)	2,320	3,190	5,070	3,000
産出額(億円)	22	14	12	8

	トマト	キュウリ	ダイコン	スイカ
作付面積(ha)	73	71	97	82
収 穫 量(t)	3,700	1,940	3,500	2,000
産出額(億円)	7	5	2	2

農林水産省 農林水産統計

● 果樹（平成30年産）

	カ キ	ウ メ	ブドウ	ナ シ
栽培面積(ha)	1,820	305	76	74
収 穫 量(t)	28,300	1,590	—	—
産出額(億円)	53	2	7	3

農林水産省 農林水産統計(ブドウ及びナシの栽培面積は平成28年産)
ウメ、ブドウ、ナシの産出額は農林水産省への聞き取りの値

● 花き・花木(平成30年産)

	切 花			花壇用苗もの類		鉢もの類	花木
		キク	切り枝		パンジー		
作 付 面 積 (h a)	245	108	118	36	12	10	6
出 荷 量 (千 本 ・ 千 鉢)	62,500	43,800	7,450	25,700	7,710	1,110	151
産 出 額 (億 円)	22	13	5	9	2	3	3

農林水産省 農林水産統計(産出額は平成29年産、鉢もの類は平成28年産)

花木の作付面積、出荷量は県調べ

● 茶(平成30年産)

茶 期 別	全 体	一番茶
荒 茶 生 産 量 (t)	1,680	940

全国茶生産団体連合会調査

茶 種 別	おい茶	普通煎茶	番 茶
荒 茶 生 産 量 (t)	499	259	492

栽培面積(ha)	620
産出額(億円)	16

奈良県農協取扱実績

栽培面積:全国茶生産団体連合会調査
産出額:農林水産省 農林水産統計

● 水産(平成30年産)

河 川 漁 業	ア ュ	アマゴ
漁 獲 量 (t)	41	22
漁 獲 高 (億円)	1	0.3

農業水産振興課調べ

食 用 魚 養 殖 業	アマゴ
生 産 量 (t)	17
生 産 額 (億円)	0.2

生産量:農林水産省 農林水産統計

生産額:農業水産振興課調べ

観 賞 魚 養 殖 業	金 魚	錦 鯉
販売数量(万尾)	6,606	0.3
販売金額(億円)	8.6	0.01

農業水産振興課調べ

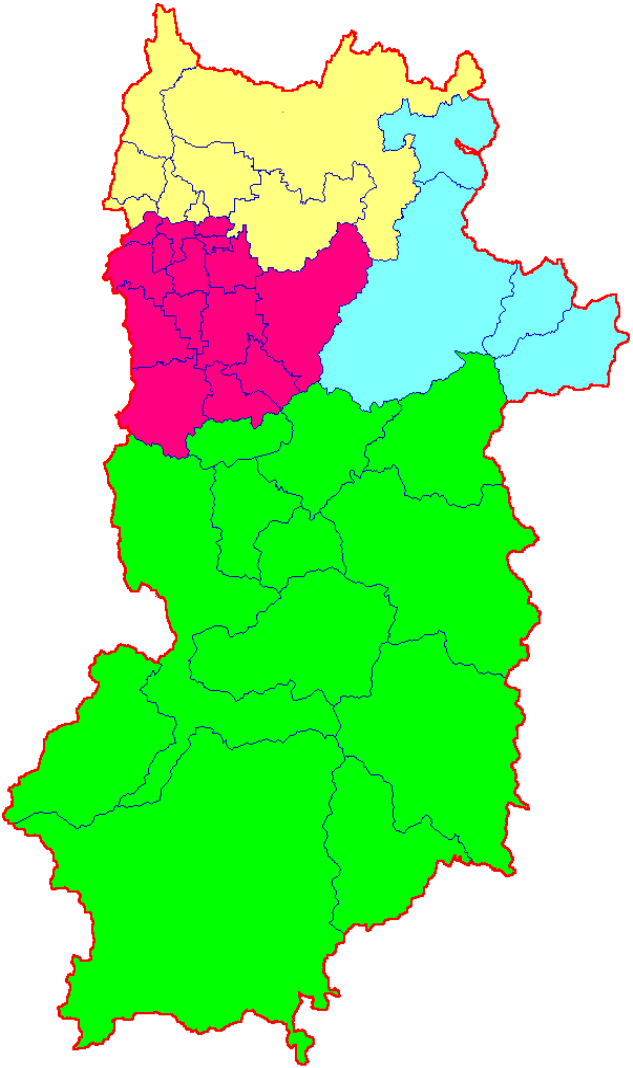
奈良県の農産・園芸・水産マップ

(米は県内全域にあるため省略)

北部農林振興事務所	奈良市	イチゴ、ナス、ネギ、シュンギク、バラ、花壇用苗もの、鉢もの、花木類、茶
	天理市	イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、カキ、ブドウ、バラ、花壇用苗もの、茶、小麦、金魚
	大和郡山市	イチゴ、トマト、ナス、ネギ、シュンギク、イチジク、筒井れんこん、花壇用苗もの、花木類、金魚、錦鯉
	生駒市	トマト、黒大豆
	平群町	イチゴ、キク、バラ、ブドウ、枝もの
	三郷町	ブドウ
	斑鳩町	イチゴ、ナス、ホウレンソウ、ナシ、小麦
	安堵町	イチゴ、トマト

中部農林振興事務所	橿原市	イチゴ、アスパラガス、花壇用苗もの、鉢もの、小麦
	桜井市	小麦、ソバ、イチゴ、ダイコン、ホウレンソウ、ミカン、バラ、鉢もの、花壇用苗もの、アユ、アマゴ、大豆
	川西町	トマト、ホウレンソウ、ネギ、結崎ネブカ
	三宅町	イチゴ
	田原本町	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、味間いも、球根切り花、花壇用苗もの
	高取町	イチゴ、トマト、ナス、バラ、トウキ
	明日香村	イチゴ、軟弱野菜、キュウリ、ミカン、鉢もの、花壇用苗もの、キク、トウキ、アマゴ
	大和高田市	ネギ、軟弱野菜、鉢もの
	御所市	大和いも、サトイモ、鉢もの、花壇用苗もの、花木類、カキ
	香芝市	イチゴ
	葛城市	ナス、ネギ、キク、鉢もの、小麦、花壇用苗もの
	上牧町	イチゴ
	王寺町	
	広陵町	小麦、イチゴ、ナス、軟弱野菜、花壇用苗もの
	河合町	ブドウ、イチゴ

東部農林振興事務所	山添村	ホウレンソウ、片平あかね、球根、茶、アユ、花壇用苗もの、キハダ
	宇陀市	ホウレンソウ、ミズナ、ハクサイ、レタス、エダマメ、ブロッコリー、宇陀金ごぼう、切り花、鉢もの、花壇用苗もの、球根、花木類、茶、黒大豆、小豆、アユ、アマゴ、ブルーベリー、トウキ
	曽爾村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、シュンギク、アユ、アマゴ
	御杖村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、アマゴ



南部農林振興事務所	五條市	トマト、ナス、イチゴ、キュウリ、ミョウガ、香りごぼう、カキ、ウメ、花壇用苗もの、枝もの、アユ、アマゴ、トウキ、小麦
	吉野町	ナス、ワラビ、アユ、トウキ
	大淀町	ナス、ナシ、茶、アユ
	下市町	スイカ、ハクサイ、カキ、ウメ、ブドウ、キク、バラ、アユ、枝もの、シャクヤク
	黒滝村	コンニャク、黒滝白きゅうり、枝もの、アマゴ
	天川村	ワサビ、アユ、アマゴ
	野迫川村	ワサビ、アマゴ
	十津川村	ワサビ、枝もの、アユ、アマゴ
	下北山村	ミョウガ、下北春まな、アユ、アマゴ
	上北山村	アユ、アマゴ
	川上村	アユ、アマゴ
	東吉野村	茶、アユ、アマゴ

2 生産状況

水稲・麦・大豆

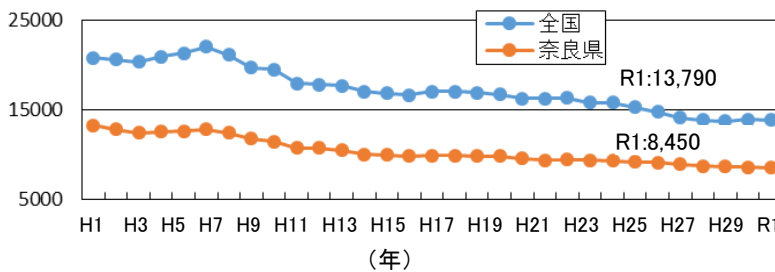
水 稲

本県での水稲の位置づけは、農業産出額(平成30年)で見ると農業全体の約27%です。令和元年の水稲作付面積は8,450haで、耕地面積の約42%を占めています。

平成27年のセンサスによると水稲を作付した経営体数は、11,691戸で、全経営体の89%になります。

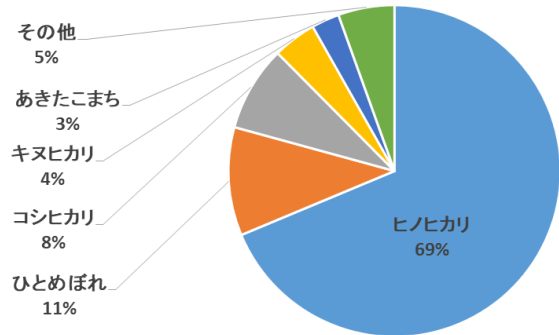
令和元年の品種別面積比率は図のとおりです。「ヒノヒカリ」は、「米の食味ランキング」において平成22年産より6年連続で特A評価を得ました。

水稲作付面積の推移 (全国:百ha、奈良県:ha)



ほ場整備された水田での水稲の収穫

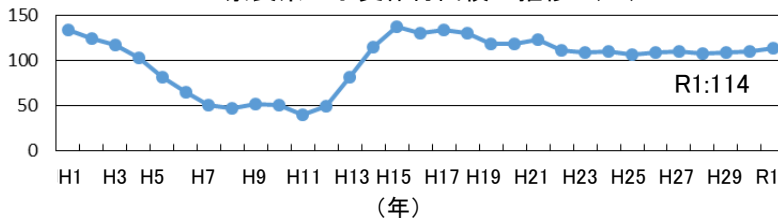
水稲品種別面積比率(令和元年奈良県推計)



麦 類

麦類はほとんどが小麦であり、桜井市、田原本町を主産地として集団で作付けされています。

奈良県的小麦作付面積の推移 (ha)

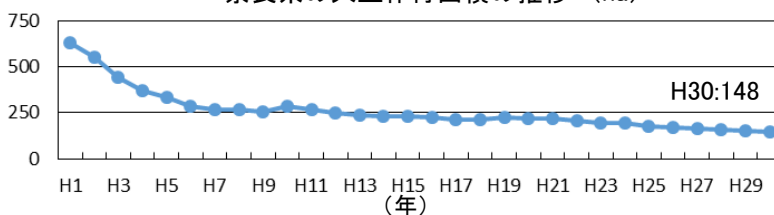


小麦の集団栽培

大豆類

大豆はほとんどが地場消費用の小規模な作付けですが、一部で集団栽培も行われています。また、県内各地で味噌加工や直売等の取り組みがされています。

奈良県の大豆作付面積の推移 (ha)



大豆の集団栽培

ソバ

ソバは、桜井市笠地区などで栽培されています。



ソバの花

野菜

イチゴ

イチゴは現在、促成作型を中心に約105ha栽培されています。(天理市、大和郡山市、奈良市他)

品種は食味が良く栽培しやすい県育成品種“アスカルビー”をはじめ、“古都華”などが栽培されています。また、作業姿勢を改善した高設栽培の導入が進んでいます。



イチゴの高設栽培

軟弱野菜

ホウレンソウ(天理市、宇陀市、曽爾村、御杖村)、青ネギ(葛城市、大和高田市)、ミズナ(宇陀市、曽爾村)、シロナ(大和高田市)、コマツナ(田原本町、宇陀市)、アスパラガス(橿原市)が栽培されています。

ホウレンソウ、ミズナ、アスパラガスはハウスによる栽培、青ネギ、シロナ、コマツナは露地栽培が中心となっています。



ホウレンソウ

ナス

夏秋期の露地栽培と冬春期のハウス栽培が行われています。露地栽培での単位面積当たり収量は全国でもトップクラスです。(五條市、広陵町、天理市)



ナス

トマト

平坦地域でのハウスを利用した促成・半促成栽培と中山間地域での雨よけ夏秋栽培に大別されます。糖度の高い完熟系などの品種が導入されています。(天理市、五條市、大和郡山市、宇陀市、曽爾村)



トマト

キュウリ

平坦地域から中山間地域にかけて栽培されており、夏秋期は露地、秋冬期はハウスで栽培されています。(五條市、桜井市)

スイカ

昭和初期の大和スイカ全盛期には1,000haを越える作付けがありましたが、平成30年に約82haまで減少しています。(奈良市、下市町) 全国有数の種子供給県として知られています。

いも類他

サトイモ(御所市、天理市、桜井市)、大和いも(御所市)、ゴボウ(宇陀市)、ミョウガ、山菜類(吉野郡)が栽培されています。

大和野菜

平成17年10月、本県の特産品として特徴をアピールできる「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を新しい奈良のブランドとして位置づけ、これまでに25品目を認定しています。

「大和の伝統野菜」とは、戦前から本県での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により、「味、香り、形態、来歴」などに特徴を持つもの、「大和のこだわり野菜」とは、栽培や収穫出荷に手間をかけた栄養やおいしさを増した野菜や本県オリジナル野菜などです。

「大和の伝統野菜」(20 品目)

祝だいこん、宇陀金ごぼう、黄金まくわ、片平あかね、小しょうが、下北春まな、千筋みずな、軟白ずいき、花みょうが、ひもとうがらし、大和いも、大和きくな、大和三尺きゅうり、大和まな、大和丸なす、結崎ネブカ、紫とうがらし、筒井れんこん、味間いも、黒滝白きゅうり

「大和のこだわり野菜」(5 品目)

大和ふとねぎ、大和寒熟ほうれん草、半白きゅうり、香りごぼう、朝採り野菜(レタス、なす、きゅうり)

県内をはじめ近府県への出荷が大半ですが、近年は首都圏などへの出荷が増えてきています。



大和の伝統野菜



大和のこだわり野菜



大和まな

薬用作物

薬用作物には、五條・吉野地域を中心とするヤマトウキ、シャクヤクや大和高原北部(山添村)を中心とするキハダ(オウバク)などがあります。

県では、「漢方のメッカ推進プロジェクト」により薬用作物の生産から販売までの一体的な振興を図っており、宇陀市や高取町など県内各地でヤマトウキの作付が広がっています。



ヤマトウキ(大和当帰)

果 樹

カキ

カキは全国2位の収穫量があり、五條・吉野地域や天理市、御所市で多く栽培されています。主な品種は“刀根早生(とねわせ)”、“平核無(ひらたねなし)”、“松本早生富有(まつもとわせふゆう)”、“富有(ふゆう)”です。品種や栽培法、貯蔵法を組み合わせることによって7月上旬から翌年1月まで出荷されています。輸出にも取り組んでおり、香港などに輸出しています。

ハウス栽培は、昭和55年に始まり、五條市、下市町で行われており、その収穫量は全国1位で、品種は“刀根早生”、栽培面積は約13haです。7月上旬から全国に先駆けて収穫が始まり、9月中旬まで出荷されています。



刀根早生のハウス栽培

ウメ

五條・吉野地域で多く栽培されています。主な品種は“鶯宿(おうしゆく)”、“白加賀(しらかが)”、“南高(なんこう)”で、5月下旬から7月上旬まで出荷されています。

市場出荷の他、加工業者向けにも出荷され、梅酒、梅ジュース、梅干し、梅エキス用などに加工されています。



ウメ

ナシ

大淀町、斑鳩町で栽培されています。

主な品種は大淀町では“二十世紀”、斑鳩町では“幸水”、“豊水”で、8月中旬から9月下旬まで直売を主体に販売されています。



ナシ(二十世紀)

ブドウ

主に平群町、河合町で栽培されています。

主な品種は“デラウェア”、“巨峰”で、ハウスの栽培の作型を組み合わせ、5月下旬から8月下旬まで近郊市場への出荷と地元での直売が行われています。また、近年、直売向けの品種で“シャインマスカット”の栽培が増えつつあります。



ブドウ(デラウェア)

イチジク

平坦部の水田果樹として主に大和郡山市で栽培されています。主な品種は“榊井ドーフィン”で、栽培面積は約27ha(平成27年)です。5月上旬から10月下旬まで近郊市場を中心に出荷されています。



イチジク(榊井ドーフィン)

花き・植木

キク（切り花）

キクは主に露地栽培で5～11月に出荷されています。質・量ともに全国有数の地位を築いており、特に小ギクは全国2位、二輪ギクは全国1位の出荷量を誇っています。

また、県育成小ギクとして“春日の紅”、“春日の鈴音”、“春日W1”、“春日Y1”を、県育成二輪ギクとして“千都の舞”、“千都の風”、“千都の恋”、“千都の粹”を品種登録しています。

（小ギク：平群町、輪ギク：葛城市、下市町他）



ネットハウス内での小ギクの栽培

二輪ギク

ダリア（球根・切り花）

球根養成（宇陀市、山添村）及び切り花生産（宇陀市、葛城市）が行われています。切り花は6～10月出荷の露地栽培が主で、ハウス栽培で11～5月出荷の冬春切りの作型もあります。



切り花ダリアの収穫

鉢もの

シクラメンやサイネリアなどが生産されています。（橿原市、桜井市、御所市、宇陀市、葛城市他）



シクラメン圃場

バラ（切り花）

施設での周年切り中心の作型が主流で、従来からの土耕栽培の他にロックウール栽培、少量培地耕が普及しています。

（平群町、奈良市、下市町他）



平群温室バラ組合・バラ団地

花壇用苗もの

パンジー・ビオラを中心に生産されており、特にパンジーは全国3位の出荷量を誇ります。（県内全域）



花壇用苗もの

枝もの（切り花）

ハナモモ、サクラ、サンシュユ等の花木の促成出荷や、クマザサ、チョウセンマキ等の栽培が行われています。（五條市、平群町、下市町他）



クマザサ

花木類（植木）

台杉や緑化用中低木を中心とした生産が行われています。（大和郡山市、御所市、宇陀市他）

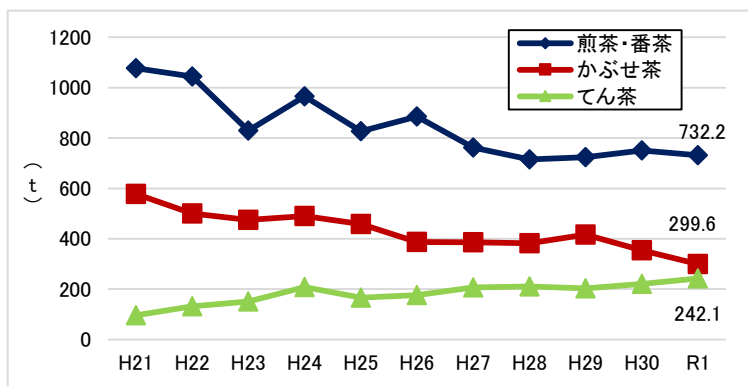
茶

「大和茶」は、奈良市、山添村、宇陀市、大淀町、東吉野村の冷涼な気候の下で栽培され、良質な煎茶やかぶせ茶が生産されています。

最近は食品加工用てん茶の需要増加に伴い、てん茶の生産量が増えてきています。

また実需者からの要望もあり、GAP(農業生産工程管理)認証を取得する生産者が増加しています。

茶種別出荷量(奈良県農協取扱い)



コンテナ型複合摘採機

摘採速度の向上、肥培管理労力の低コスト化が図られ、県内の茶産地で導入が進んでいます。



優良茶園の風景

大和高原に広がる造成茶園。防霜扇が整備された緩傾斜地に緑の縞模様が広がり独特の景観を形成しています。



機械化された大型自動製茶工場

コンピューターで統合制御された製茶工場で自動的にお茶が加工されます。

環境保全型農業

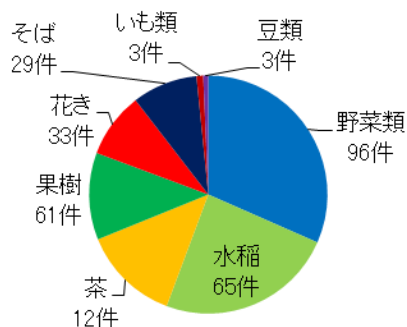
土づくりを基本とした環境保全型農業の推進に取り組んでおり、現在、奈良県での有機農業の取組面積は103ha(平成29年)、エコファーマー認定数は平成30年度末で302件となっています。

有機農産物を始め、エコファーマーの農産物の生産・消費拡大を図るため、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマークの認定を行っています。



奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク

各エコファーマーの主要作付品目別件数(H31.3)



水産業

奈良県では、吉野川(紀の川)、新宮川、淀川、大和川の4水系の河川で、アユやアマゴなどを対象に釣りによる漁業が行われています。また、山間部で豊かなきれいな水を利用してアマゴ等食用魚の養殖が、大和平野でかんがい用水を利用して金魚を主体とする観賞魚の養殖が行われています。

『県のさかな』

県民の皆様には魚への親しみを持っていただき、これらを育む水環境への関心を高めていただくため、「きんぎょ」「あゆ」「あまご」の3魚種を県のさかなに制定しています。

河川漁業

22漁業協同組合が河川漁業を行っており、吉野川・熊野川の本支流や大和川・淀川(名張川)の上流域ではアユやアマゴを、大和川下流域や他の3水系のダム湖等ではコイやフナを中心に漁業が行われています。また、アユ漁業の振興のため、ダム湖産天然アユの有効活用に取り組んでいます。さらに、カワウの食害による漁業被害が多いことから、カワウの一定数の駆除に取り組むことで、内水面漁業・養殖業の経営の安定化を図っています。



アユ漁の解禁風景

養殖業

アマゴ

主な生産地は、吉野郡や宇陀郡で、養殖されたアマゴは河川漁業の放流用のほか、地元へ食用として出荷されたり、甘露煮などの加工品としても利用されています。

金魚

大和郡山市を中心に、水田を改良した養魚池等で養殖されています。奈良県は金魚の国内有数の産地で、生産された金魚は市場、問屋等を通じ全国に出荷されています。

その他

大和平野のため池を利用して、フナが古くから養殖されています。また、生産量はわずかですが、アユ、イワナ、ニジマスが吉野郡で地元向けに養殖されています。



アマゴ養殖場



金魚の養殖場



観賞魚市場のせり風景

3 研究の取組み

農業研究開発センターの研究成果と現在取り組んでいる内容を紹介します。

1. 野菜

- 商品性の高い新たなイチゴ品種の育成



「珠姫（たまひめ）」

「（仮称）奈良10号」

- 高品質化のための技術開発



イチゴ促成栽培における花粉媒介昆虫としてのヒロスキンバエの利用技術の確立

- 低コスト化・強靱化を実現する園芸用ハウスの開発



建設足場資材を利用したイチゴ高設栽培施設の現地実証

2. 花き

- 低温期の茎伸長性の良い5～6月咲き小ギク品種の育成



「春日Y2」
(流通名：春日の星)

「春日W1」
(同：春日の泉)

- 計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発



蕾径測定用 ARマーカーカードを利用した新たな蕾径測定方法の開発

- 良日持ち性ダリア新系統の選抜



有望系統の奈良県における適応性の調査・選抜

3. 果樹

- 新たな高品質甘柿品種の育成



中生、種なしなどの高品質甘柿品種の育成

- ドローンの利用によるカキ傾斜地における防除の省力化



- カキの重要病害虫の発生生態と防除対策の検討



チャノキイロアザミウマの被害果（左）及び発生源等調査のための粘着トラップ（右）

- 脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発



ジョイント栽培の生産性と省力性を調査

- ワイン用品種の県内での適性調査



県内の気象条件で栽培可能な品種の検討

- ハウス柿の収穫時期予測法の開発



気温と果実の生育、収穫時期との関係を調査

4. 作物

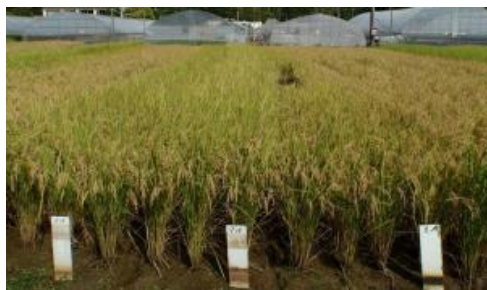
●地域特性に応じた育種・品種選定と栽培技術の確立



奈良オンリーワン酒米品種の育成



素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜



水稻の奨励品種の選定

5. 薬用作物

●優良品種の育成 (ヤマトトウキ)



根の商品価値を消失させる開花がしにくい品種を育成



●宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発



国産の需要が期待できる品目の栽培技術開発
(左からイトヒメハギ・ヒロハセネガ)

●単味製剤原料向けトウキの 省力栽培技術の開発



1穴密植栽培検討

6. 茶

●輸出需要向け茶生産技術の確立



黄色LED灯による防除



フェロモン剤（赤色チューブ）
による防除

7. 遺伝資源の保存、中山間地農業、作業負担軽減機械

●遺伝資源の保存と活用



ジーンバンクの運営

●女性に優しい 農業機械の開発



操作の簡単な汎用電動運搬機の開発
(除草機能の追加)

●大和野菜の機能性を向上させる 生産技術の開発



大和寒熟ほうれん草栽培管理技術の改善

8. 病害虫防除・環境保全

●生物機能を利用した病害虫防除技術の開発



アブラムシの天敵・アブラバチの利用



微生物資材によるイチゴ萎黄病の防除

●キクわい化ウイルス抵抗性の小ギク品種選抜



病原体を接ぎ木接種し、抵抗性品種を選抜

●水田ほ場の土壌改良技術の研究



土壌水分量と地下水位の調査

●遺伝子診断による重要病害診断技術の開発



トマト葉かび病が抵抗性品種で発生している様子

●農産物の農薬残留分析と農薬登録拡大



県産農産物の安全確認およびマイナー作物の農薬登録適用拡大
(写真上：ヤマトウキ)

9. 加工商品の開発・機能性成分の分析

●渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発



●柿葉を利用した後発酵茶の開発



●柿タンニンを活用した機能性商品の開発



奈良式柿タンニン(上)と柿タンニンサプリメント(右)

柿タンニン高速抽出技術(特許)を軸にした健康機能性と利用方法の研究

●彩りドレッシングの開発



大和の伝統野菜「片平あかね」(写真中)と大和茶(写真右)を利用したドレッシング(左)の色調保持や食味改善について研究

●農産物の機能性成分の分析



柿「富有」のビタミンC(左)とイチゴ「古都華」のアントシアニン(右)含有量分析を実施



編集：奈良県農林部農業水産振興課
令和元年度発行